

# 空 氣 稽 古 場

展 vol.1

対象者 中屋敷 南 振付家／  
ダンサー

観察者 秋山 きらら 展示企画者／  
ダンスアーキビスト

# 稽古場の空気展

対象者  
観察者  
秋山  
きらら  
中屋敷  
南  
振付家／ダンサー  
展示企画者／ダンスマーキビス

## はじめに

この冊子の見かた

この冊子は、展示のアーカイブではありません。

今回の展示「稽古場の空気展 vol.1」の主題となっている稽古場の空気を、冊子の形に再構成した、稽古場の空気のアーカイブです。つまり、この冊子自体がバーチャルな展示会場です。

さらに言えば、ここに記されているものは、作品ではありません。

私、秋山きららが、中屋敷 南の稽古を見てどうにか写し取ってきた資料であり、私の主觀のメモです。本人から直接貰った資料や、その場に居たメンバーの写し取ったものもあります。どこから見てもかまいません。

いろいろな要素のテキストや残してあるものを、どのように整理して見せていいたらいいのかと考えた時に、やはり一番良いのは時系列に並べることだなと思いました。起こった事の順、思ったことの順に並べています。

ということで、この冊子は何かの作品を享受するよりも、最低でも3つほどをじっくり見て、小説を読む時のようにそこからもう一度立ち現れる稽古場の空気感を、ぜひみなさんの方で想像して、再演してほしいのです。

音楽のリズム、衣装の手ざわり、飛び交う言葉のユニークさ。

そしてそれらが連なる先の、クリエーションの行き止まりやブレイクスルー。

面白い芸術作品は、制作の裏側まで面白い。

コンテンポラリーダンスを中心に、振付家・ダンサーとして活動する中屋敷南、秋山きららが6ヶ月間密着。

批評や記録映像には残らない、稽古場の空気を、展示に変えて残します。

## 稽古場の空気展 vol.1

日時:2023年1月11日(水)～22日(日) 8:30 - 10:30 / 12:00 - 20:00

※会期中無休 ※入場無料

※1月13日(金)・20日(金)はイベント開催につき17:00まで

会場:HAGISO (東京都台東区谷中3-10-25)

主催:秋山きらら

令和4年度台東区芸術文化支援制度 対象企画



台東区芸術文化支援制度



今回取り上げるダンスに限らず、パフォーミングアーツ、時間芸術、空間芸術、タイムベストメディアを用いたアート、インスタレーション、イマーシブシアター、即興と言うジャンル／表現方法。はたまた、ワークショップ、クリエーション、プロジェクト、体験型上演などは大半が消えていくことが前提とされ、最も弱い記憶媒体である観客の脳内にのみ影響を残し消えていくと言ふ前提を持つていました。もしくは本番の記録映像以外のものは二の次、三の次とされ後から振り返ろうにも残されていないことがほとんどでした。また、長期保存が可能な記録方法とされる写真やテキストは記憶再生装置とはなれても、こうした表現にとつては弱い記録でしかありません。

そんな昨今、コロナという非常事がデジタルアーカイブを加速させ、映像配信技術が民主化したこと、前段階が変容しています。加えて作品を支える思想もメディアも多様化している現在、既存のアーカイブ方法だけでは捉えきれなくなっている創造的な活動や表現作品を未来の観客に引き継ぐために、これからアーカイブの可能性を探る事は急務且つわくわくする課題です。創造的かつ実験的にアーカイブする方法を探るとともに、作家と共に作用し合い、現場に居て、ときには作品に入りしながら、従来のキュレーターやドラマトックとは異なる現場への関わり方を試行錯誤し、アーカイブ的行為を守備範囲とする活動を、今回vol.1として展示します。

この企画を考えた当初、3人ほどの異なるフィールドの作家を総論的に取り上げようとしていました。ですが、結果として中屋敷南さん一人だけを対象としても、やるこの「考える」とが多すぎてしまうやや形になつたと言えます。南さんという、ダンスに映像という変数を掛け合わせて作品を作っている作家と、それでも色々なディスカッションをしていた延長で、稽古場にまずは居させてもらつとどうこのから始めるのにならました。

稽古場という何かが生まれる場所、色々試されでは無くなつてしまい、不安定で、関係性の揺らぐ、ゼロイチが起つていく場所。そこには、出演者であるか、若しくは「ドラマトックです」という温かい空気の中、この活動を遂行することができました。それは早々に感じた嬉しい誤算でした。田標の一つであった、現場への関わり方の摸索はすぐであります。

ですが、もう一つの田標であるアーカイブについては延々と考えることになりました。大喜利のようなアイディア勝負や、介入のしすぎにならない、中屋敷南の作品に一番合った方法はなんなのだろうと考えながら、稽古にとりあえず居るところをじめました。

気付いたら、南さんはこの半年にかけてずっと《super reflection》という作品をやることになり、私はこの作品が変化していく過程に立ち会つたくなりました。

私の帶同中にこの作品の発表の機会が2回あり、一つは7月23日に池袋のあうるすぱつとで行われたBaobab PRESENTS 「DANCE×Scrum!!2022」での舞台上演および映像作品上演となり、一つは11月26日・27日に神楽坂のセッションハウスで行われた「ダンスブリッジ2022」の「バーチャルリタル」による企画での上演でした。この2回の本番に向けての過程を覗かせてもらつた結果がこのに表れていました。

ダンサーが作品内で、どういった指示を遂行しているかについては、「super reflection の中で」に具体的に書いたので、ぜひみなさんもやってみてください。

対象者

中屋敷 南 Minami Nakayashiki

中学一年で、部活動のダンスと出会う。創作ダンスの経験から始まり、現在も作品を作り続けている。人間の感情、感覚、内包された欲望の表出を、繊細で表情豊かな動き、振付で表現する。

ヨコハマダンスコレクション 2021-Dec 奨励賞 (2021)、最優秀新人賞 (2015)、象の鼻テラス FSP2021 最優秀賞。BankART AIR 2021 SUMMER レジデンス参加。2021年度 DaBY レジデンスアーティスト。横浜国立大学 Y-GSC 修了。



観察者

秋山 きらら Kilarla Akiyama

1991年、東京生まれ。幼少期からクラシックバレエを習い、全国大会入賞経験あり。立教大学現代心理学部映像身体学科卒業。

2016年、ダンスを表現手法としてつくり方から開発する〈身体企画ユニットヨハク〉を立ち上げ、これまで多数の作品・企画を発表。Legend Tokyo CHRONICLE 30秒クリエイター部門 最優秀クリエイター賞・優秀演出賞・CHET 賞 (2021)、アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム 2021 汗かくメディア賞 (2021)、清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2023 入選 (2022)。

2018年より、ダンサーの継続的な情報交換の場の必要性を感じ発足したダンス井戸端会議では活動の中心的役割を担う。2022年には『ダンスの使いかた展』を開催。

現在は、パフォーミングアーツを中心とした企画制作に携わるとともに、表現への多様な関わり方を模索している。





これは、完全に形の話なんんですけど…



仕事として作り作るような立場は難しい  
けれど、相談役的になにかしらご一緒したい  
と覺っていた。中屋敷 南さん。今回、吉にがどう



なうかも分からぬ段階で「せひどうぞ！」  
と言ってくれたおかげで実現できました。

吉にがどう

2022.4.6



super reflection [ver.1.1]  
真俯瞰カメラが捉えた映像より抜粋

2021.11.26-27

@ 神楽坂セッションハウス

振付：中屋敷 南

映像：中瀬俊介

音楽：角田寛生

衣裳：富永美夏

出演：重松悠希 山口なぎさ 中屋敷 南

協力：久保田舞 荒木美結 秋山さらら

### 《ポイント》

- ① 真似しやすいようにゆっくり、もっちりと。
- ② リーダーが自分なのか他人なのかわからなくなるくらいな  
めらかに動き続ける。もしくは、素早く動いてフェイント  
をかけるようにリズムを崩すのもあり。
- ③ 触れ合っている場合は、自分が触られているのと同じ部位・  
同じ感触で、周りの人人に触れていきます。
- ④ 点対象と螺旋を意識したコンタクトワークを展開するとより  
super reflection ぼくなりります。

### super reflection の 手引き

- ・ 2~4人ほどで集まります。
- ・ 場所のセンター（真ん中）を決めて目印をつけます。
- ・ リーダーを決めます。
- ・ センターを基点に、点対称を保ちながら、リーダーの動きを  
正確に真似していきます。
- ・ 視野は空間の全体を見るようにします。
- ・ 慣れてきたら、隣の人へリーダー役を移していきます。
- ・ 終わりはありませんが、終わらせたい場合は徐々に外へ離れ  
ていくと、散り散りになってなんとなく終わっていきます。

# この、作品にとつて重要なのは、なんなのか

企画書に、文字や写真だけでは弱い記憶再生装置でしかないことを書いていました。

それはそうなのですが、その弱さを引き受けて、アーカイブ的行為で遊ぶことができないのか、ということが次なる課題として出てきました。記録者が透明な存在となつて可能な限り事実だけを残していく報道マンのような態度と、YouTuber のように主観的に企画立てて伝えていく態度。その極端のどちらも参考にしつつも、今回は無理に作品の良さを変えずに、静かに、けれど長く、もしくは経験のように、人に伝えることができないか、という態度を取ることになりました。

今、メディアアートが再生機の寿命などで保存の危機にあります。また、電子データは長期の保管がとても難しいことが明らかになつてきました。そんな中、石板は戦火を逃れて何千年と残り、それらの僅かなヒントからさまざまに過去を掘り起こす人がいます。もしかしたら、弱いメディアも、面白いかもしない。と、向き合ったのが今回の vol.1 の展示になります。

あえて作品を直接伝えるような映像類は除き、テキストが多くなっています。余白の多い資料群から、時間のある程度かけて再現するように、経験するように、保存しておくアーカイブもあるのではないか。これが一つのチャレンジになっています。ぜひみなさんの方で再生してみてください。

クラシックバレエの豪華なパンフレットの雑形をつくったのは、バレエ・リュスのセルゲイ・ディアギレフのこと。

一方、私がよく見るダンスの公演はパンフレットがあることの方が珍しいです。記録映像すら残つてないことがありました。だけれど、アーカイブを頑張っていた作品や団体がこのコロナ禍で日の目を見て、「やっぱりアーカイブって面倒だし、予算もかかるけどやつたほうがいいよね、もっと優先順位上げてやらないといけないよね」という気風が高まつていった1年だったようになります。

ディアギレフの時のように、それまでの当たり前が変わるようなところにいるなと思いつつ、あらゆる先輩方に話を振つてみると大概が「アーカイブは大切。でもそれも予算次第。説明してお金を付けることがまずは大切」というような訳知り顔をよく見つきました。

またある先輩は、残すことも大切だけど、今残っているものに誰も見向きもしないし整理もさていない。まずは、他人の残したもの活用してみるのが重要なのはと思って、他人の指示書を見て再演する稽古会をしている、という話も聞きました。

面白い。確かに作品や上演を、もう一度編集するような仕事なので、作家からの信頼も余裕もないでないことはだと思います。これからいろんなところで起つてきている出来事がどのよう魅力的に／長期的に／実験的に残されていくのか、アーカイブに対する考え方を、何かをやつている人ことに聞いてまわりたいくらい。

## ひたすら 試してみる

今回の稽古で結構面白かったのは、「super reflection の手引き」にも記述されているワークを繰り返すことで、作品がつくられていったことです。3～4人が集まり隣の人の動きを反射的に真似していくというワークを極めていき、本番でもその仕組みを再現することをダンサーに求めていました。

多くの場合ダンス作品は、振付や動き出すタイミングが決められて、客席から見たときの身体のフォルムの美しさや動き方の質感を重要視することが多いのです。しかし今回はタイトルであるリフレクションや、対象を認知して反応していく作品のシステム 자체を重要視していました。最終的に作品としての強度を上げるために、動く手順は9割方決められていたものの、本番でも隣の人の動きを初めて真似する実感を携えてやってほしいと取れる指示が出していました。かつての中屋敷南もやつてきたように、振付を与え、その動きを何度も練習することで動きが洗練されタイミングが揃い、見るに耐える仕上がりになるというのがダンス作品のリハーサル過程だと思いますが、今回のリハーサルはそうではなく、稽古場で本番が近くなるまでずっとクリエーションをしていました。決まった動きを洗練させるのではなく、反応速度と精度を上げていく訓練と言い換えてもいいかもしません。

ダンサーたちは、まずは自分の外側のフォルムを気にせずに、作品のルールに従って反応していく、その集中力と瞬発力、正確性を高め、精度をどんどん高めるように言われている。それもあってか、ダンサーは魅せるとか観客の目を気にするというより、何かを集中して遂行しているのだろうなという儀式感が作品を包むことになっていました。



## 真俯瞰での 見え方を 徹底的に研究

稽古場に鏡がなくても大丈夫なのか。公民館を稽古場としているダンサーを見ていてよく思います。だけれども、普段私が真俯瞰の視点を見慣れてないせいか、今回の作品の場合、角度やタイミングがズレっていてそれほど気になることがありませんでした。頭と足とをどうやって等価に扱っているのか、なぜその幾何学的な模様を作っているのか不思議に思う一方で、鏡と睨めっこしながらズレを探すことは、本質的なことではなかつたのだなと思いました。

実際に稽古場で、その身体の組み上がった景色を見ていると、なんて奥行きのある肉体がそこにあるのだろうと思うことが多々あります。やはり観客側に向かって見せるというダンスの形式は、これまでそれほど肉体の立体感を求めてこなかったのでしょうか。そうではない真俯瞰という視点が求められた時、この振付が導き出され、初めて見るような風景がいつも稽古場に広がっていて、豊かな試行錯誤が行われているなとつくづく思いました。

真俯瞰の視点のために再開発された身体の動かし方は、南さんの手によって整えられ、作品然としていきます。振付家が全てをつくらず、ダンサーとの実験を重ねた共同制作のような形で仕上がっていった今回の作品は、創作過程からして作品のキーになっていました。

いや、全ての作品がそうなのかと気付きました。そのメンバーで、その創作過程だから、その作品ができるが、ただ、その過程を見ることがないから、見えないから、残らないから、知らないだけで。



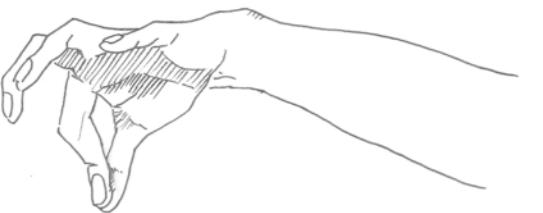
南さんは焦っているというところを  
見せないのがいいのか、あまりわざわざしてる時  
がないなと思っていたが、ゆきちゃんの「長い  
と分かりますよー！」になんとなく気付いた。  
衣装の富永美夏さんの髪型提案に、本当に  
近いことを実感する。 2022. 11. 12



南さんの稽古場に行くと、ダンサーではない人や、出演者ではないダンサーが多いたり  
して、すごくひらけていいな、あもしろいなーと  
思いう。私も特にどういう役回りで今日来て  
いるか特に説明せずに居させてもらえてました。  
2023. 10. 12

## 号頁 扇引单手

中屋敷南の振付／動きにはよく扇引单手が  
出でる。ワークショット時に言っていたが、本人  
曰く、「手癖……というか腕の振りによく使  
う動きなんですが」とのこと。パンパンと小気味良い。  
今回は領を持ちあげて扇引单手でした。



## シチリア または、マン島 または、 世田谷区の紋章 または、床足

シチリアとマン島の旗は、大河ドラマ『ひだりん古のロゴ』  
のように“三脚巴”と言うらしい、中心から枝分かれして膝  
を曲げた3つの走る脚で形づくられていため、こう  
呼ばれるようになつた。



そのまでは、主に丸（まんじ）と呼んでいたり床足や  
ひざ床足（やかまんじ）と呼んでいたり。また、よく練習で  
使用した世田谷区の施設のマーク



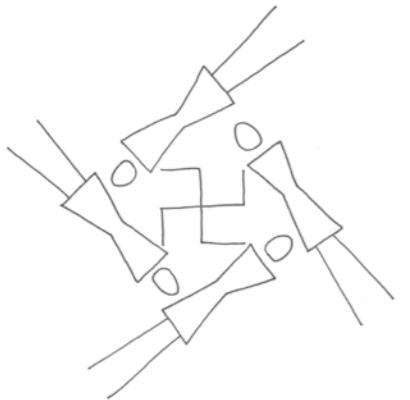
「世」の文字が  
三方に広がる紋章

にも似ています。



振付シート

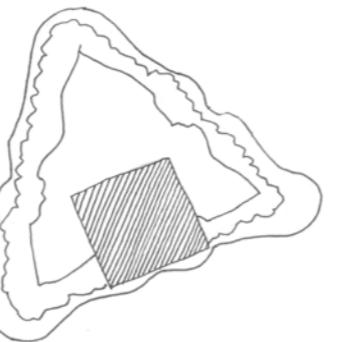
まんじ  
まんじ



4人でやると本当に「匂」の字とありになります。  
まさにJKの若者言葉で「まじ匂（ほじまんじ）」が流行った印象も  
あって、中尾敷南がよくギルモーティフにした作品と見えてることもあり、  
なんとか「匂」と聞こえて、ギャルな雰囲気を鬯（あたむか）えています。  
この振付には、どんな要素はしまりもない。  
振付家ではなく、ダンサーの重松さんが名付親っぽい。

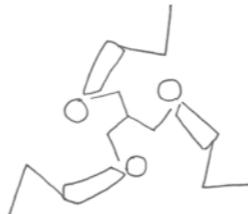
おにぎり

木戻したら、単に“三角形”などと呼び“うだけれど”，  
“おにぎり”と呼ばれるこの振付は、各人が長座の  
角度を  $60^\circ$  にすることによって完成する。やっている本人たちは、  
直上から見て45度とはできないのに必ずおにぎりに  
なることはすごい。



前後歩きが膝を曲げる → 伸ばすので  
システムチックに床に広がったり縮みたりするのが面白い。

120°



鏡もない看古場で、直上からどう見えるか  
分からなければ、「120°！」という振付は、身体の曲がり  
で3各所を  $120^\circ$  にすることによってできあがる。

鏡がなくても、いつ何時でも自分が見えたときに身体と重ねてみると  
のが本当のヨガーサー（e.g. 着人は手を直上に上げたつもりが、  
異なる方向に手が伸びて…）なくて聞いたことがあるけど、  
これは本当、キレイに幾何学模様に見えて おめごと。

エコマーク

自分の右の人へ両ひざをま書き、V字バランスを  
連続させたようにな3振りに名付けられており  
“エコマーク”。



「2人でやった時の名残」とのこと。  
実験時に2人でやると石皿代に循環するような  
エコマークのような手の形になる。

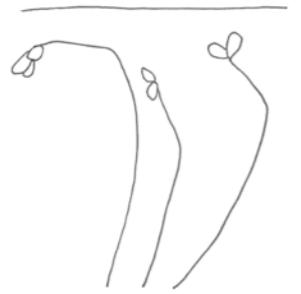
# 豆 苗

「豆苗の上に低い天井があて、こうやてさえちゃ、た感じ。

やかない感じ。」「はい、触められたら豆苗～」

これは、11月10日の稽古日誌にも書いたけれど、

中屋敷角は、お子本のような動きを見せるでもなく、何度も



やらせてみるでもなく、

こういう言葉を使って「ニサー」とれぞれの頭の中に交通の

イメージとつけていくようだ。

朱には、こんな形が浮んでいたけど合ってますか？

# カーテン

重力を感じながら、手をカーテンのようにひらひらと重ねかす振付。

よく使っている公民館の部屋には、よくカーテンがひらひらとしていた気がする。



# ソフトクリーム

これは、絵やテキストで説明しづらいので「けれど、3-4人で組み体操の人間椅子のようにひらひらから螺旋を描くようにして立ち上がりにく時や重ね作と呼んだもの。ソフトクリームのように上方へスペースをもと費やせよとのことだ」だ。



ちなみに固定の振付としてだけでなく、常に終みながら重ねてほしい時に「ソフトクリーム」と言っていた。

中屋敷南の稽古では、食べ物の名前がよく出てくると見るのは私だけだ

# ビチビチ

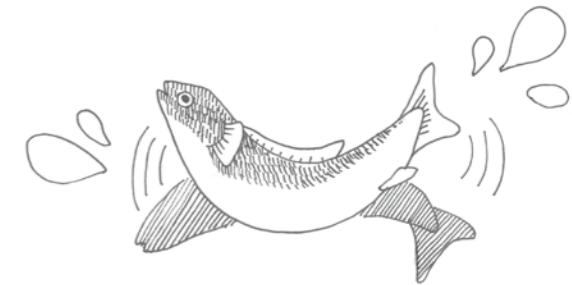
生きのよい魚の効果音かなと思ったけれど、

石塀かに、ダンサーたちは「ビチビチ」と言っていたように

見える。とても静かに。

体幹で足をねじる感じなんですか。

「ビチビチ」と名付けることで生まれる「ビチビチ」感がとても良い感じに出ていて気持ちいい。振付家がその動きへニコニスをどう伝えよいかで、稽古の要だと思ってたが、



中屋敷南は、見た目で描えていくというより、言葉で動く理由を丁寧えていく、という印象がある。

# トンカチ

アーチした手のひらを天井に向かえさせ、  
グーした手で重力に逆らわずに下に  
向けて落とす / 口くち、3人のダンサー  
の身体ごと下方に落ちて次のシーンに移行  
していく。

自分で自分の手を口くちではなく、他人の  
手を自分でグーで叩きます。

# 阿修羅

単に、背中合わせで3人が三方へ向かっているのが  
阿修羅像のよう見えた目次。  
つけられた名。

ポケモンのナッシーのようである。

2ムーブ  
3サクサク

中尾敷南は喋りながら踊るヒモタインなど見て、  
本番中も喋ることもあるらしいとダンサーから聞  
いた。 やる回数分、動きの名を言うことも多く、  
これは、その典型例だとう。

2ムーブ → なんらかに2つポーズする  
ゆっくりした重かさになりリラックスして  
真似がしやす。

3サクサク → 素早く手だけで3つポーズをする  
素早い動きは、リーダーを真似する難易度  
が上がり、集中力と瞬発力を自然と引き出す

"4ムーブ6サクサク"というように、ポーズの数は  
任意に変更可能。

# 三角井木行



4人でやると"井"の字にならけれど、3人だと、  
三角井木行(さんかくいげ=)の△の形になら  
ため。月窓で、前の人の腕を掴みにいく  
だけだが、真似眼鏡からの見栄えは面白い。  
3人が連結していく様も面白いと、一眼だけ  
好きな振り付け。

## 稽古場日誌

稽古場日誌とあわせてご覧ください。



## ちくわ、ちくわ、ちくわ

ちくわ耳をご存知ですか。

言語を聞いていても、右から左へ傾けてしまって頭が  
頭に残るな!ことを言うらしい。馬耳東風、馬の耳  
に食ひ。そんな意味はこの振付には関係ないが、

ちくわ耳のように

耳に刺さったちくわで

床に対して垂直になる

ようにしてほしい。と

いう指示から“ちくわ”

と呼ばれている。

3回連続してやる。

ちくわ、ちくわ、ちくわ。

初めて聞いた時にちくわ要素が見えたらず思わず質問した。



## オムライス

ナミナミユニゾン(別紙参照)の一連で、

ダンサー同士の身体が離れた際に、各々バラバラ  
の動きをする時の呼び名。

元々、音符古々ときに、好きな食べ物の名前を唱え  
ながらその言葉に合わせて、そこまでのアームを崩して  
動かす、というワークをやっていたため。

中屋敷 南の好物がオムライス、ということは分かる  
けど、他のダンサーの好物を思い出せない。彼らに  
と、でもこの振付は“オムライス”なんだ“違うか”……。

ナミナミユニゾンで安定したリズムを崩して、ちょっと  
いびつで凸凹した感じのリズム感を持つために  
ひとことだけ、オムライスのリズムはどうだったのか“違う”。

## ナミナミユニゾン

背中合わせで、腕をナミナミさせるユニゾン。

全ての振付がユニゾンなのでは?と思うが、これのみユニゾン  
と名が付いている。



## “見た感”には 出すためなら どうしたか いいのか

舞台芸術ってコミュニケーションの間に産まれてくるものなんだと思います。

この日に披露しなきゃいけないという日が決まつていて、それまでに何度も集まつて、言葉でのコミュニケーションでないとしても、身体でやってみて意見を交換して、作り方はそれぞれだけれど、だんだんと本番に向けて形になつていく。

今日はタイトルを最初に決めていて、ダンサーを真上から撮影した映像をリアルタイムで舞台奥面に投影するという仕組みまでが決まつていて、立ち戻る強い軸があり、他の要素のペースルのピースをはめていくのにそれほど迷わないクリエーションをしていました。真俯瞰からの視点での映像を駆使するパフォーマンスを、どのようにしたら面白く見せられるのか。ただ、中屋敷南の最近得意とするインスタレーション的なパフォーマンスの見せ方は、その傾向が強くなりすぎると舞台でのパフォーマンスとの相性は悪くなつてゆく。

照明などの舞台効果でぎゅっと集中させる劇場でのパフォーマンスは、ずっと見てられるようなゆつたりもつちりとしたインスタレーション的な作品とは方向性が異なる、ということを改めて考えていました。では、作品を見た感、つまり作品を見てアドレナリンが出たりカタルシスが得られたりする感触に、どのようにして作品の要を失わずに近づけていけるのか。稽古の終盤は主にそこに焦点が当てられていました。

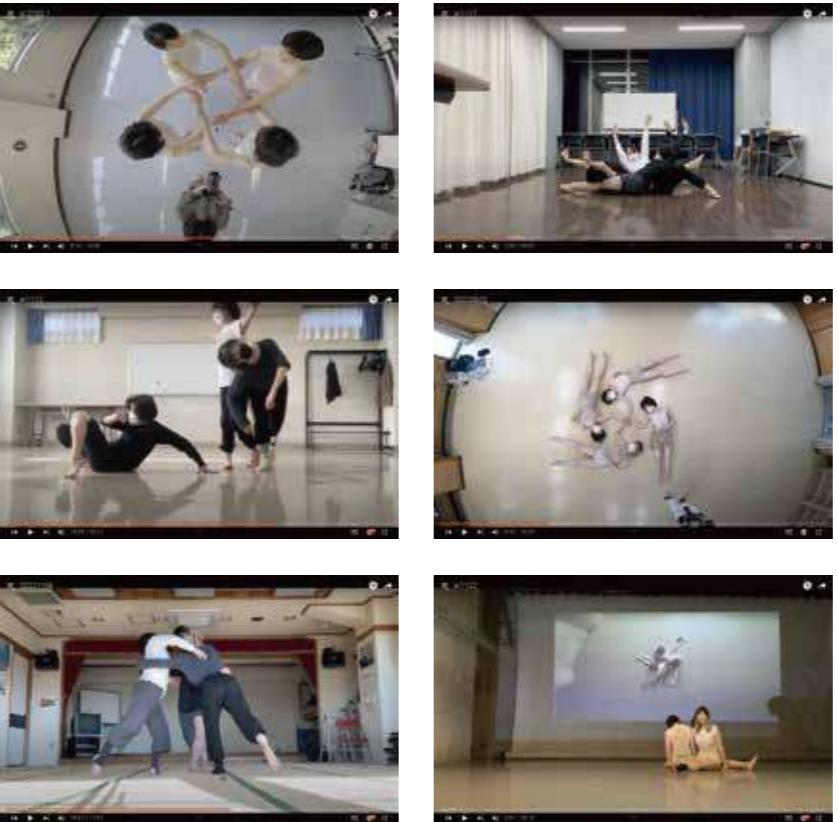
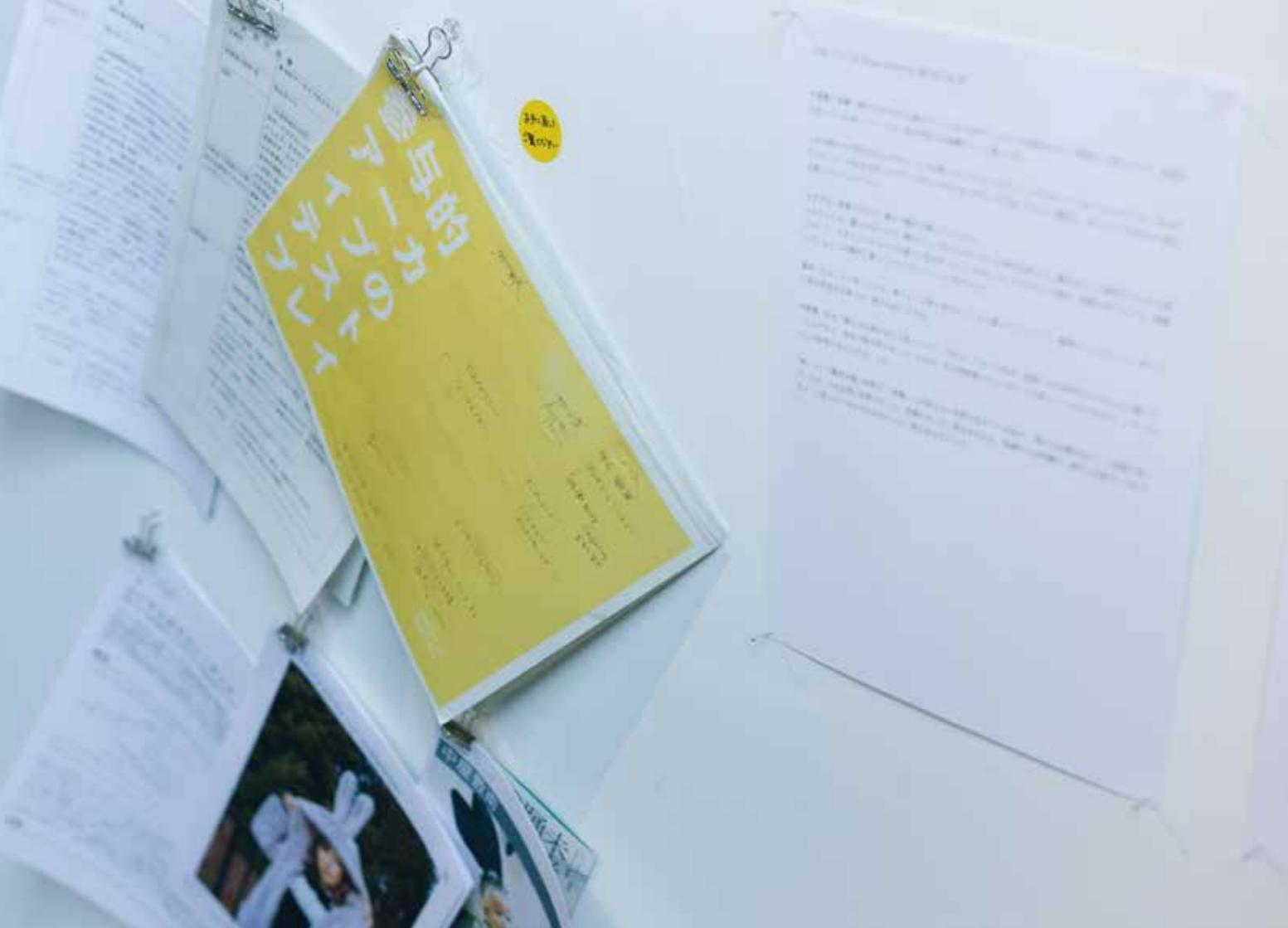
## 本番を 超えて

中屋敷南は、とても整理してやつている作家だと感います。稽古スケジュールはgoogle スプレッドシートで管理しているし、稽古中にはほぼずっとiPadで動画を撮っていて、田付(+)とYouTubeにアップロードしてダンサーと共有しています。

Twitterには稽古の所感や、作品のコンセプトを書き残していく、「LINEのやりとりでも長文で意見が返つてくるので後からも追いやすい。私も稽古日誌をNotionに書いて共有したり、Noteで公開したり……。

ここからふと思つるのは、平然と様々なデジタルプラットフォームを使つて、稽古を行い本番に備えており、その行為自体は残していくことにシームレスに繋がるのですが、やはり、整理して「残す」と以上に、それを活用できるように「編集し」見せられるようにしていくことは、もうひと山とも手間がかかることだと思いました。なにしろ膨大なやりとりや時間の上に成り立つていて、私たちはそれらが作品や本番に集約されていくと信じていて、その細かな一回一回の出来事を疊ろにしがちです。あるアーティストは創作時間が孤独すぎて出来事としてカウントしておらず、気付いたら1週間くらい経つていてと言つていました。そして、そのクリエーション過程を記録したとて、どのように開いていくかを想定し得ないから、どういつたどこまでの編集をかけておくのがが難しいのです。

今回は、展示という形式で不特定多数の方々に聞く、というゴールが見えていたので、そこに向けて編集をかけていきました。しかしそれでも、残して見せるという行為はとても難しかった。ですが、テレビのドキュメンタリーを見ていても、博物館に行つても、雑誌を見ていても、「」れつてアーカイブの一種じゃん」と独自のアンテナが立つていったのは嬉しい成果です。



右手を下からからめる  
その螺旋逆バージョンをやっていく  
座って  
左にひねると  
手の位置は前の人手を参考する  
前の人スタートしたら  
左つま先をちょっと膝から入る  
ここでうまく上人の体勢に巻き付きます  
そして右手が肩  
いったん卵のようにぎゅっとなります  
そこからぎゅをさらに強めながら足だけが伸びていきます  
右尻を軸に長座を目指しながら  
ひらいていって  
離したら  
うつ伏せになりながら右手を床に添わせて  
仰向くなって  
膝を曲げてあげる  
倒す  
片手で倒しながら  
それぞれがくの字になることで  
そこから自分の膝と肘をつけるイメージで  
持ってきて  
隣に手が集まる  
全部の関節を 120 度にする、膝、付け根、肘  
そこから右手だけ残して仰向けに寝ます  
そのまま左の方を向くと  
隣の人の右足に手が届くイメージ  
そのままなぞっていくと上半身につたわっていくので  
その内側に向きます  
内側に向いてなぞった延長線上に隣がきます  
膝を寄せてきます  
右にひらいていって  
押し合った状態で  
自由にしてからの  
もう一度右に



インсталレーション+パフォーマンス

秋山 あらはるさんには生に、2022年のsuper reflection の稽古場に来てもらひました。

あらはるさんをはじめ、久保田舞さん、荒木美結さん、何名かの協力者による客観的な存在や言葉がこれほどありがたいと思えた稽古場はなかったかもしません。

わかりやすい部分としては、稽古中に、今この動きはどう見えてるのか?を、リアルタイムで教えてくれる存在があつたことです。更に、出演者の代わりに記ワーク(※super reflectionのコントラクトをそう呼んでいる)に入つてもらひ、出演者自身が外からの視点を体験することができなくなったことが挙げられます。特にsuper reflectionでは、振付家本人も含め身体が絡み合っているので、客観的な目線を持つ機会がなく、このよろな稽古環境になつたことはとても有り難いことでした。

2020年以降、中屋敷の作品変遷の中では新しいチャレンジとなつた「touch the ghost skin」「super reflection」の作品群を、ダンサーとして共に歩んできた重松悠希さん、山口なみわさんにおかれましては、私の意味不明な言葉(苦笑)しか聞けなかつた状況から、外部の人の存在と言葉が加わつたことによつて、一緒に舞台に立つだけではわからなかつたところへの気づきがあつたのではないかと、そうであつたらいいなと思いました。

何より、私自身が、稽古場に来てくださつた人の数だけ、別の視点から多くのことに気付かれました。

それから、これらの作品にとってなくてはならなかつた映像の中瀬俊介さんや、音楽の角田寛生

さんの存在。お二人ともそれぞれに独自の創造力と影響力があるので、それをひとつの作品の中に(一応の形として)まとめなければいけないことが、私にとって一つ大きなミッションでした。そこに加えて、衣裳を富永美夏さんに担当していただけたことも、大きな支えとなりました。ダンサー以外のクリエイターの方にも何度も稽古に来てもらひ、各分野で議論を深めながらの稽古が増えてしまひました。

それまでの中屋敷の稽古場は、振付家とダンサーとの内輪なコミュニケーションによって進行していくたよに思ひます。そういうコミュニケーションの中から、踊りを見つけたいと思つていたからです。反面、外部に開かれていないところでも、それまでのやり方だけでは、どうにも立ち行かない」ということがわかつてきた時期もありました。映像、音楽、衣裳、踊り、それぞれが一つの作品にならうとする作業の中では、踊りだけの頑なな求心と内向的なコミュニケーションだけではうまくいかず、とても頭を悩ませていました。

それらには大きな意義を感じています。  
そのようなタイミングでの、何名かの協力者との出会い。  
そしてこの『稽古場の空氣展』の立ち上がり。

これらには大きな意義を感じています。

ところが、イベントのトーク中にきらはるさんが、「稽古場でのハラスメント対策」に少し触れていました。外部の人が一人居るだけで、その存在がハラスメントの抑止力になるという。そのような意味合ひとしても意義深い取り組みであり、将来の稽古場の在り方に必要なイメージを持つことが出来たかもしれません。

# 稽古場の空気展 vol.1

## ■ 展覧会

2023年1月11日(水)～22日(日) 8:30 - 10:30 / 12:00 - 20:00

来場者数 | 997人

企画 | 秋山さらら

共同企画 | 中屋敷 南

補佐 | 加藤航平、椋橋彩香、寺田鵬弘、Nishi Junnosuke

協力 | アラキミュ、中瀬俊介

会場 | HAGISO

写真 | 野村稔

広報物デザイン | 濱口雅司

## ■ 関連イベント〈インスタレーション+パフォーマンス〉

2023年1月13日(金)・20日(金)19:00 - 20:00

来場者数 | 1月13日(金)12人、20日(金)14人

今回の稽古場で行われていたクリエイションの手法を、会場にて実演しました。

出演 | 中屋敷南、重松悠希、山口なぎさ、久保田舞

## ■ カタログ

企画・編集 | 秋山さらら

表紙写真 | アラキミュ

印刷 | 株式会社グラフィック

発行日 | 2023年3月

2022. 4. 8 FRI

2022. 4. 19 TUE

2022. 5. 9 MON

2022. 5. 12 THU

2022. 5. 25 WED

2022. 5. 29 SUN

2022. 6. 21 TUE

2022. 6. 25 SAT

2022. 7. 3 SUN

2022. 7. 23 SAT

2022. 7. 29 FRI

2022. 8. 1 MON

2022. 8. 30 TUE

2022. 9. 9 FRI

2022. 9. 14 WED

2022. 10. 8 SAT

2022. 10. 12 WED

2022. 10. 16 SUN

2022. 11. 10 THU

2022. 11. 12 SAT

2022. 11. 22 TUE

2022. 11. 25 FRI

2022. 11. 26 SAT

2022. 11. 26 SAT

2022. 11. 27 SUN

2022. 12. 2 FRI

2022. 12. 2 FRI

2022. 12. 3 SAT

2022. 12. 13 TUE

2023.1.11WED - 22 SUN

中屋敷 南さん打ち合わせ  
@BankART Station

中屋敷 南さん打ち合わせ  
@Skype

令和4年度「台東区芸術文化支援制度」資料作成

令和4年度「台東区芸術文化支援制度」必着締め切り

HAGISO 打ち合わせ @HAGISO

初めて稽古場に行く @代沢地区会館 第一会議室

令和4年度「台東区芸術文化支援制度」一次審査通過電話連絡

稽古見学 @丸山区民集会所

映像作品のためのスタジオ撮影 @目黒スタジオ Ast

Baobab PRESENTS「DANCE×Scrum!!!2022」中屋敷 南『super reflection [ver.1.0]』舞台上演 ①13:00 @池袋あうるすぽっぽ

令和4年度「台東区芸術文化支援制度」二次審査会・プレゼン @台東区役所

令和4年度「台東区芸術文化支援制度」採択決定電話連絡

Baobab PRESENTS「DANCE×Scrum!!!2022」中屋敷 南『super reflection [ver.0.1]』映像作品上演

中屋敷 南さん打ち合わせ @スペイライラカフェ

令和4年度「台東区芸術文化支援制度」打ち合わせ① @台東区役所

ワークショップ参加 @ノアスタジオ学芸大

稽古見学 @上野毛区民集会所第一第二会議室

稽古見学 @下馬南地区会館

稽古見学 @代沢東地区会館 大広間

稽古見学 @野毛区民集会所 第二会議室

会場下見 @神楽坂セッションハウス

照明合わせ @神楽坂セッションハウス

本番初日前 @神楽坂セッションハウス

神楽坂セッションハウス「ダンスプリッジ 2022 3つのバーチャルリアル」舞台上演 ①19:00 @神楽坂セッションハウス

神楽坂セッションハウス「ダンスプリッジ 2022 3つのバーチャルリアル」舞台上演 ②13:00/③17:00 @神楽坂セッションハウス

令和5年度「台東区芸術文化支援制度」打ち合わせ② @浅草文化観光センター

HAGISO 打ち合わせ② @HAGISO

中屋敷 南さん打ち合わせ @KAAT

「super reflection[ver.1.1]」振り返り会 @LINE ミーティング

「稽古場の空気展」開催 @HAGISO

観察者 秋山さららの活動記録